

# 同期の集い

## 中10・拾福会

平成十九年十月十七日、十一時より、センシティブタワー海燕亭において開催した。米寿を迎え、脚・腰等不自由となり、参加困難な者多数。参加者は四名と減ってきた。

渡辺喜久雄(中10)

## 中17・八十路の青春

昭和二十年三月旧制中学校を卒業した私たちは、今年八十歳の傘寿を迎える年齢になった。

卒業当時の日本は、米軍機による本土空襲が日増しに激しさを増し、昼夜を分かたず警戒警報や空襲警報のサイレンが、国内のいたるところに鳴り響いていた。そのたびに防空壕や近くの竹やぶなどに避難したが、雨あられと降り注ぐ焼夷弾や爆弾で、住宅街は忽ち火の海となり、阿鼻叫喚の生き地獄と化した。私の在学していた千葉県立匝瑳中学校にも勤労働員が務

令され、私たち五年生は日本建鉄船橋工場で働くことになった。全員工場内の寮に宿泊して、飛行機部品の製造に従事した。

毎朝寮の前に整列し四列縦隊に隊列を組み、「ああ紅の血は燃える」を大声で斉唱しながら工場まで行進した。

花も雷の若桜

五尺の命ひっさげて

国の大事に殉ずるは

我等学徒の面目ぞ

ああ紅の血は燃ゆる

私たち匝中十七回生の同期

会は、戦後まもなく発足し、毎年地元と東京近隣で一回ずつ会合を重ねて今日に至っている。同期生の結束も固く、母校への募金や旧友の死去の際には香典、花輪などで弔意を表している。そのためには、幹事役を買って出てくれる旧友の労に負うところが多い。私は埼玉県に在住しているので、毎年東京近隣の会に出席している。近隣には五十人ほどの友が住んでいるが、会に集う者は二十人前後で、そ

のほとんどは同じ顔ぶれである。時に二十年、三十年ぶりにひよっこり顔を出す友もいる。顔を見合わせても全く記憶にないが、話しているうちに少年の頃の面影がよみがえってきて、「何だ、じゃないか、元気でいるか」と一瞬のうちに往時にタイムスリップする。

欠席者からの葉書の通信欄を読むと、その多くは体調をくずしている。現在入院中の者もいれば、家で病氣療養中の者もいる。在学中頑健な体

躯の持ち主でスポーツマンだった友の名を見つけて驚かされることもある。盃を重ね会が熱気を帯びてくれば話はずむ。話す内容

といえば、まずは勤労働員のこと、九十九里浜沿いに一夜四十数キロを歩き通した夜行軍のこと、厳しかった軍事教練、厳冬の早朝行われた剣道の寒稽古、マラソン大会、自転車旅行などなど、最も辛く苦しかった体験が、今にして思い返せば、それがかえって懐かしい思い出として心に蘇ってくるから不思議だ。年齢を重ねるにつれ、話題

はたわいない孫の話から、大病を患った時の話、そして最近は亡くなった友の話も出るようになった。中には日本の現状を憂い、社会情勢も教育もこんな状況でいいのかと悲憤慷慨する熱血漢もいる。

以前まだ現職が多かった頃の同期会は、夕食をはさんで夜やるのが多かったが、定年を迎える頃から昼の会になった。

集う同期の一人一人の話しぶりや物腰を見てみると、年齢以上に老いの影を色濃く宿している者もいれば、まだ頭髪も顔色もつやつやとして

若々しい雰囲気を出している者もいる。一口に八十歳といっても、高齢者の老いは個々まちまちだという思いを深くする。その違いは、環境や生活習慣、日ごろの心の持ち方からくるものなのだろうか。二時間あまりの懐旧の集いは、またたく間に過ぎて、会の終わりにには決まって校歌と応援歌を歌う。白髪をなびかせ、禿頭をうちふり、顔を紅潮させ声をしぼる八十路の男

たちの姿に、若き少年の姿が重なる。  
〔校歌〕

此処東海の道の涯  
大海原を見渡して  
神代ながらの浪洗う  
九十九里浜程近く  
万だの桜芳しき

西が城なる丘の上に  
そそりて建てり我が母校  
日本男児を鍛ふべく  
〔応援歌〕  
風肅々と松を吹き

昔を偲ぶ西城址  
古武士に学ぶ健児あり  
森羅や凍る霜の朝  
健児の白衣 汗にしみ  
万象燃ゆる夏の日も  
健児の腕は磨かれつ

歩み来たつた人生の道のりを  
を顧みれば、往時茫茫として  
夢の如し。よくぞ日本男性の  
平均寿命を超えて、八十路の  
今日まで生きながらえてきた  
ものかな。  
人の命はまさに天命。与えられ、生かされてきた命を大切に  
切にして、一日一生、これからの  
一日一日を自分の器に  
応じて、一歩一歩堅実に歩き通  
していきたいものである。  
菊池 英彰(中17)

高8・古希に集う

平成十九年十月二十九日、成田ビューホテルに六十七名が集い、古希を祝う同期会が開かれました。母校入学以来五十五年の月日が流れ、その顔は、最初随分年を取ったなあと感じる顔々であったが、時間が過ぎ宴も最中になると、青春時代に唄われた歌が飛び出し、気分は、在校時そのままとなり、遠く名古屋、長野等遠方より参加もあり、中には卒業以来初めての参加もあり、楽しい五時間でした。

十年ごとの母校記念事業には、いつも一致団結し、常にトップの協賛をして来たこともあり、母校のパンフレットに写る種々の写真に思いを込めて見つめる姿には、母校を愛する同窓生の笑顔がありました。語り合う顔と話は、思い出と今後の母校への期待で自分達のことは、まだまだ次の記念事業の話が出るほど元気な話ばかりの一日で、来年度の会を楽しみに散会となりました。

宇井 一夫(高8)

高12・

100回記念ゴルフ大会

五年あまり前、同期生数人で始まったゴルフだが、そのメンバーが年々増えて今年四十名を超える人数になった。この集いを『月例会』と称して、月に二回の例会を続けている。

『安い料金でゴルフを楽しみ、以って健康増進を果たす』がモットーである。



おかげさまで、メンバー全員が健康に恵まれゴルフを心ゆくまで楽しんでいる、と書きたいのだが、残念ながらそうはいかないようだ。

この間に、脳梗塞で倒れた者、咽頭ガンで声を失った者、舌ガンを切除した者、心臓のバイパス手術を受けた者、ペースメーカーを胸部に埋め込んだ者、腹部大動脈瘤を切った人工血管を入れた者、腰痛にひびが入った者、前立腺の手術を受けた者等々、

立派なもの

だ。少なからず自慢をして良いことだろう。

このメンバーがこの二月十九日、100回目の例会を迎えた。これを祝って房総勝浦に宿をとり、大原御宿ゴルフクラブで記念大会を開催した。参加したのは、総勢二十四名。日ごろの健康に感謝しながら一日を楽しんだ。

はたして、次のイベントは150回であろうか。うちそろって200回が祝えたら、これはまさにギネスブックものだろう。

不幸にして病を得ても、不屈の闘志でそれを克服する。昨年、六十五歳の青木功選手が全日本シニア選手権でエイジシユートを達成したが、我々の仲間にもそれを達成する者が出るだろうか。またそれができる年齢は何歳なのか。興味は尽きず、意欲の衰えないところである。

ちなみに、当会の会員資格は男性12回生、女性は年齢を問わずである。この要件を満たす方々の入会を歓迎いたします。

磯村 武彦(高12)

さふさ  
編集部への  
手紙

過日千葉市の手塚博禮さん(中5卒)から巻紙に筆書きのお便りを頂きました。

要約すると、九十一歳になる手塚さんの想いは、七十余年前に、坂を上って通った後者への懐かしさに溢れていた。

五年間書き続けた生徒日誌を百冊以上も持っておられ、戦前の匣中生活を偲ぶ数多くの写真などもお持ちの由、メガネ(近視)と補聴器は使っているが臥っではないし、車での外出もしておられるという事で、何かさふさの編集に役立てられればと、有難いお言葉が綴られていて、感激しました。是非お伺いしてお話を伺い、貴重な記録や写真などお借りできれば有難いと思っております。

### 高校35回同期会



平成20年1月5日 於 黄鶴

#### ゴルフシニア大会

平成十九年十月十五日、富里ゴルフクラブにて第七回シニアゴルフ大会が盛大に開催されました。

昨年のコンペが荒天のためハーフで中止となるアクシデントがあったため、幹事として大変心配しましたが、当日はくもり空ながら時々薄日がさす絶好のコンディションに

恵まれ、楽しくプレーすることが出来ました。

関係各位には準備から大会終了までご協力頂き、そして沢山の皆様からご芳志、商品等を頂戴し、重ねて御礼申し上げます。

又、参加者全員のご厚意により母校に金十五万円の助成金を贈呈することが出来ました。

今回は昨年に続いてのシヨ

ットガン方式のスタートで行ったため、スタート、昼食時には気ぜわしさをおかけしま

したが、待ち時間が短縮されスムーズな運営が出来たと思っております。今回は過去最高の参加者(百五十二名)でしたが、女性が四名とその点が少し残念でした。

懇親会はほとんどノンアルコールでしたが、和気藹々と

進み、表彰式では最高齢賞と



して中21回卒の内田裕雄先輩に盛大な拍手が送られました。又、俳優地井武男様から(高13回)からも沢山の賞品をいただきました。  
大会を通じ、母校匠瑛高校を思ふ心、同級生、同窓生の連帯感を深めることが出来たと確信し、重ねて皆様のご協力に感謝申し上げ報告いたします。

体育部長

鶴野 航三(高15)

#### 成績(敬称略)

- 【ネットの部】
- 優勝 加瀬健一郎(高16)
- 準優勝 高橋 輝行(高15)
- 第三位 鈴木 操(高6)

#### 【女性の部】

- 優勝 寺嶋 恭子(高14)
- 準優勝 秋田美恵子(高16)
- 第三位 油井 国子(高14)

#### 【グロスの部】

- 第一位 鶴野 剛夫(高19)
- 第二位 伊野 幹雄(高15)
- 第三位 加瀬健一郎(高16)

#### 同窓会ゴルフ大会

「チャリティ募金報告」

校長 宇井 美樹

日頃より、本校への多大なご支援を頂きますことに対し、改めて感謝申し上げます。

また、同窓会体育部活動の一環として行われていますゴルフ大会は、年々盛況に開催されていますことについても併せてお喜び申し上げます。

さて、毎年の大会後に頂きます募金につきましては、本校運動部援助金として有意義に活用をさせていただいております。

つきましては、長年に亘るご支援の状況について、次のように報告をいたします。

今後とも生徒の活躍の糧となるようご協力をお願い申し上げます。

### チャリティ募金報告 (平成19.10.16現在)

1. 収入額(助成額)	2,558,805円
内訳	
匠中・匠高(春季の部 第1回~第11回)	1,941,910円
シニア(秋季の部 第1回~第7回)	616,210円
通帳利息	685円
2. 支出額	1,715,720円
内訳	
至誠館設備(食器、布団、毛布、エアコン等)	591,220円
定時制サッカー部ユニフォーム	72,000円
トレーニング機器(エアロバイク)	221,500円
陸上ジュニア合宿経費	33,500円
テニスコートローラー	71,500円
製氷機	700,000円
製氷機修理代	26,000円
3. 差引残額	843,085円

## 校史探訪

### II 制服について II

大正十三年の創立から私の経験した昭和十七年ごろまでの、旧制匠磋中学校の制服のことについて書いてみます。現在の制服との大きな違いは、夏服と冬服があったことと、授業の中に教練科、作業科という正課があり、教練の時には別の教練服というカー

キ色(土ぼこりの意)という黄色と淡い茶色のまじった色の服との三種類を用意した。教練のほか、作業と体操の時間にはそのズボンの方だけを履いていた。作業というのは、二年生だけに課せられる授業で、校庭の草むしりや、便所の汲み

取りなどを担当した。運動場は常に使用していたので草などは生えていなかったが、本館前の日本式庭園と本館と木造二階建ての新館の間の洋式庭園には、授業の生徒らによって雑草は引き抜かれ区画ごとの通路は極めて綺麗に整備されていた。新館は特別教室で、物理の階段教室、化学教室と図画室そして二階は博物室(今の生物室)地理、歴史の教室に教員室が上下に二ヶ所あった。この新館は創立五十周年に当たり、現在の理科棟に建てかえられた。当時の新入生は、大部分が羽織袴の下駄ばきで登校したが、五月一日からは、上級生より一ヶ月早く霜降り木綿の夏服となった。登下校には白いズック製の四角い靴を登下校時は左右をかえて背負った。靴は短靴と海軍陸戦隊型の白い布を膝下に巻きつけ、外側を紐でくくりつける方式のもので、修学旅行にもこの服装と靴を掛けて出かけた。我われの時からゲートルは毛織の細長い陸軍式の巻脚絆となり靴も編上靴となった。上級生は作業の時などには

古い白脚絆を使っていた。六月一日からは全校揃って夏服の着用となり帽子の上部は白い布で覆った。十月一日から翌年五月三十一日まで小倉木綿にネルの裏のついた厚ぼつたい服であったので、十月とか五月にもなると暑くてやりきれなかった。この制服は登下校のほか自宅から外出する時も着用するように定められていた。霜降り木綿の布地は、度々の洗濯や日射しを受けて、だんだんと白地に近いように色あせて行った。三年生くらいになると袖やズボンの裾も短くなるので、洋服の指定商に行つて新しい布を付け足してもらい五年間使用した。冬服も全く同様に継ぎ足して着ていた。因みに当時の物価は、授業料四円五拾銭、校友会費五拾銭、保護者会費参拾銭の五円参拾銭を事務室に納めた。制服は夏服四円、冬服七円五拾銭、教練言円五拾銭、編上靴参円五拾銭、ゲートル言円五拾銭、学帽(一高型)言円五拾銭、カバン言円五拾銭、運動靴七拾銭、干潟から八日市場への通学定期券一年間拾

貳円ほどであった。生徒は千葉へ何かの大会に行くについては事務室へ行つて学割券をもらつと、千葉まで五拾銭のところ式割引で四拾銭であった。私の入学した昭和十二年は七月に廬溝橋に端を発した支那事变が始まり、卒業直前の十二月には大東亜戦争に突入した。そして徐々に物資は不足し、物価も少しずつ上がり始めてはいたが、私生活の面ではさほどの影響はなかったように思っている。進学のため上京した昭和十七年以降になると、物資はすべて軍需優先となり、革製品は街から消えてゆき、木綿など輸入に頼っていた製品は配給の切符制となり靴下一足買うにも切符なしには買えなくなった。次第に配給は主食の米にまで及んで、民間の生活も次第に窮屈になっていった。そして敗戦を迎えるまで、更に戦後の数年間は、むしろ戦時中よりももっと苦しかったと思う。ふり返っていま想つと、よくも飢え死にせずに生き残つたものと、全く感無量である。

品村 晃(中14)

# おめでとぅございませす

平成十九年秋の叙勲

瑞宝双光章

保田親精さん(中19・20)

教誨師として矯正教育三十九年従事の功勞による

旭日中綴章

飯島重雄さん(中22)

千葉県議会議員九期三十六

年、議会議長、自民党千葉

県連幹事長等歴任、地方自治

治功勞

平成十九年文化の日

教育功勞

井橋 力さん(中19・20)

校医として学校保健の部の表彰

## 母校 今春の人事異動

### 退職

音楽 宮崎 洋子

転任・全日制

事務主幹

志賀 正義(高22)

県立東総工業高校へ

保体 山野井 和敏

県立若松高校へ

社会 長谷川 清

県立東金商業高校へ

家庭 香取 里佳

県立成田北高校へ

数学 吉田 浩明

県立大綱高校へ

副主査 小野寺 誠

県立銚子商業高校へ

転任・定時制

社会 石井 正義

県立佐倉東高校へ

国語 向後 芳彦

県立東総工業高校へ

英語 小野 貴則

着任・全日制

事務主幹 齊田 完

県立成田国際高校より

保体 佐藤 光夫

市立銚子西高校より

社会 高橋 信雄

県立八街高校より

家庭 田中 桜子

市立銚子高校より

## 同窓会入会式

今年度の同窓会入会式は、

全日制が卒業式予行の後、定

時制は卒業式終了後行われ、

三四二名が新会員となった。

新幹事九名は次の通り。

新幹事

A 佐藤翔平 銚子市

B 鈴木健太 横芝光町

C 内山裕太 匝瑳市

D 加瀬正人 旭市

E 神崎真彦 旭市

F 久保圭裕 旭市

G 林 大貴 匝瑳市

H 飯島康仁 匝瑳市

P 熱田晃一 匝瑳市

音楽 大木 早智子

市立銚子西高校より

数学 平山 弘志

新任

副主査 高野 善美

県立八街高校より

着任・定時制

社会 中村 敬一

県立東金商業高校より

国語 五木田 勝

県立茂原高校より

## 私案の提

### 故氏家次郎先生の遺作を 保存する会 準備会事務局御一同様へ

伊藤 聰

旧職員・美術

(昭38〜43在職)

すっかりごぶさたしておりますが、突然のお手紙でお許しください。

同窓さふさ35号で、中川先生が氏家先生の作品のことに書いて書いておられるのを知って、心配しておりました。

同窓さふさ36号で、その後の状況が分かりました。皆様のご苦勞による結果で、何よりと存じます。

私は、以前充実した画集ができ、作品が匝瑳高の一室に棟列されて先生の一室ができていると思っておりました。卒業生のクラス会が八日市場であった時にいつか、匝瑳高を訪ねることができると思っていました。

さふさ35号のことを知って先生の作品をどのようにしたらよいかと考えてきました。函館にも、当地が生んだ日本を代表する画家があられます

が美術館がありません。道立

函館美術館にも一室がありません。人口の多くない岩内町、

俱知安町、鹿追町等には個人の美術館がありません。いろいろと困難が伴うことですが、

最も理想的なのは氏家先生の美術館ができることはいうまでもありません。第二は文化

会館のような施設に先生の記念館ができるとよいと考えます。是非、そのような施設が

できてほしいものです。

このようなことは、すでにお考えになったことばかりと思えますが、私の思いとして、

したためさせていただきます。もし私に何かできることがありましたら、ご連絡ください。

それでは、どうぞ御健勝にお過ごしください。  
2008年3月26日

### 編集部注

伊藤聡先生は本校教諭ご退職の後、北海道教育大学教授に就任されました。函館市に在任されております。



# 平成19年度進路状況

## 今春の進路状況

今年の三月本校を巣立っていった卒業生の進路状況をお知らせします。

今年度の卒業生の進路状況は次のようになります。

国公立大学合格者は現役二三名、過年度卒一五名の計三八名でした。

現役生の私立大学合格者は延べ四二八名で、短大合格者数は一四名でした。

専門学校合格者は四一名でした。

就職希望者は公務員合格者が一名で、民間企業に三名、自営一名と就職が決定しています。

国公立大受験者は延べ一〇三名で合格者が二三名ですが、合格率は二二・三%になります。昨年度は三七・五%でした。合格延べ数、合格率ともに昨年を下回りました。

多くの生徒が早目に受験準備に取り掛かることができたこと、上位層の生徒についてはかなり目標が高く妥協しなかった生徒がいたことなどが、理由として考えられます。

二〇〇八年度センター入試は、多くの科目で平均点がアップしました。

河合塾によると、五(六)教科七科目九〇〇点集計の推定平均点は、文系が五七一点(得点率六三・四%、昨年比

一四・四%増)、理系が五八九点(得点率六五・四%、昨年比二五・五%増)となっています。センター試験の平均点上昇が受験生の積極的な出願を後押ししました。

全国的にはこのような状況でしたが、本校受験生についてはセンター試験の点数が伸びず苦戦しました。

本校の国公立大合格者二三名のうち文科系(人文科学、社会科学、理数系を除く教育など)が一〇名、理科系(理学、工学、農学、保健など)が三名でした。

全国的に国公立大学への入気は堅調です。ただし受験科目の五(六)教科七科目は、現役生にとって負担が大きいものであることに変わりはありません。今年の現役生の多くはそのことを身に沁みて感じたことと思います。今後とも国公立大学を志望する生徒は、早目の受験準備をして欲しいと思います。

これまで国立大学の試験日程は前期、後期の二回、公立大学の中期の一回でした。しかしながら、全国的に後期日程を廃止したり、縮小したりする大学が相次ぎ、大学受験の至るところに影響を及ぼしています。国立大学の今後の試験日程に注意しながら、受験者の欠席率が高い後期日程受験(地方の国立大学を中心にまだまだあります)まで粘れば、国立大学合格への可能性は広がると思われます。

### 国公立大学

合格進路先	今年度		昨年度	
	現	浪	現	浪
北海道大			1	1
北教大岩見沢校			1	1
東北大			1	1
秋田大	1	1	1	1
山形大			1	1
福島大			1	1
茨城大	5	5	3	1
筑波大	2	2	2	2
宇都宮大			1	1
群馬大			1	1
埼玉大	3	1	4	1
千葉大	1	6	7	9
電気通信大	3	1	4	3
東京工大	2	2	1	1
東京工業大			3	3
横浜国立大	1	1	1	1
新潟大	1	1	1	1
金沢大			1	1
信州大			1	1
静岡大	1	1	1	1
岡山大			1	1
愛媛大	1	1		
九州大			1	1
宮崎大	1	1		
琉球大	1	1		
会津大	1	1		
茨城県立医療大			2	1
群馬健康科学大			2	2
高崎経大	1	1	1	1
首都大東京	1	1	2	
横浜市立大			4	4
山梨県立大			1	1
都留文科大	1	1		
国公立大合計	23	15	38	45

### 私立大学

合格進路先	今年度		昨年度	
	現	浪	現	浪
国際医療福祉大	2	2	12	12
獨協大	4	4	8	1
文教大	11	11	11	11
文京学院大	1	1	2	2
明海大	7	7	4	4
目白大	1	1	3	1
神田外語大	12	4	16	21
淑徳大	8	8	10	10
城西国際大	1	1	4	4
聖徳大	8	8	9	9
千葉工大	14	2	16	28
千葉商大	2	2	1	3
東京平成大	5	1	6	6
東京情報大	12	12		
麗澤大	3	3	6	6
和洋女子大	4	4	9	9
千葉科学大	7	2	9	3
青山学院大	7	1	8	2
亜細亜大	5	5	2	2
桜美林大	4	4	5	5
大妻女子大	5	1	6	9
学習院大	2	2	3	3
北里大	1	1	2	5
共立女子大	1	1	1	1
杏林大	7	1	8	4
慶応大	1	1	4	2
国学院大	1	1	2	8
国土館大	7	7	5	5
駒澤大	13	13	18	20
実践女子大	4	4	4	4
芝浦工大	5	5	6	6
順天堂大	1	1	1	1
上智大	2	1	3	1
昭和	2	2	1	1
昭和女子大	4	4	3	1
昭和薬大	1	1	2	2
女子栄養大			1	1
成蹊大	3	3	3	2
成城大	3	1	4	2
専修大	22	2	24	23
大東文化大	7	7	19	1
拓殖大	8	8	2	1
玉川大			2	2
中央大	14	5	19	14
津田塾大	1	1	1	1
帝京大	9	9	9	1
東海大	5	2	7	10
東京慈恵会医大			1	1
東京女子大	2	2	1	1
東京女子医大	1	1	1	1
東京電機大	1	1	1	6
東京農工大	3	1	4	3
東京理大	5	4	9	16
東邦大	12	3	15	16
東洋大	13	4	17	30
日本大	37	7	44	44
日本社会事業大	1	1	1	1
日本女子大	1	1	1	3
日本体育大	1	1	1	1
法政大	10	1	11	26
武蔵工大	2	2	3	3
武蔵野音大	2	2		
武蔵野大	3	1	4	6
明治大	8	6	14	17
明治学院大	12	2	14	12
明治薬大	2	2	2	
明星大	5	2	7	1
立教大	4	2	6	7
立正大	6	6	2	2
早稲田大	3	5	8	8
学習院女子大	1	1	1	1
東京医療保健大	1	1	1	3
麻布大	1	1	1	1
神奈川大	14	14	9	2
鎌倉女子大			3	3
相模女子大	3	3	1	1
フェリス女大	2	1	3	
金沢工大	1	1	1	1
中京大	1	1		
日本福祉大	1	1		
京外大	1	1		
同志社大			1	1
立命館大	2	2	3	3
関西大			1	1
その他の私大	27	2	29	38
私立大合計	428	73	501	575
準大合計			1	1
短大合計	14	14	30	30
留学合計			1	1
専門学校合計	41	3	44	34
就職				
公務員合計	11	11	8	8
民間合計	3	3	1	1
自営合計	1	1		

平成20年4月8日現在

私立大学では延べ合格者数が昨年を一四七名下回りました。難関私大の早・慶・上智は六名(前年比減七)、MARCH(明治、青山学院、立教、中央、法政大学)四三名(前年比減二九)、日・東・駒・専(日本、東洋、駒澤、専修大学)八五名(前年比減三〇)となっています。

私大入試について、全国的には今春も前年並みから若干の志願者増になった模様です。私立大学の

人気と難易度については相変わらずで、都市部の知名度の高い大学は志願者を集めるものの、それ以外の大学では志願者が集まらないという状態が続いています。河合塾の調査では三月一日時点で志願者数が判明していた二〇九大学のうち、主要二一大学の志願者数が二〇九大学計の五六・八%を占めたそうです。

短大合格者数は一四名と半減、出願者が少なかったこともあり、学生

の四大志向がうかがえます。専門学校は四一名で実際の進学者数は三七名でした。看護・医療系へ一名、理容・美容系へ六名が進学しました。

就職は公務員が延べ一名合格し、昨年に続く健闘を見せました。新しい年度が始まりました。子どもたちの進路実現に向けて、より一層の努力を続けてまいりたいと思います。

(進路指導部長 塚本雅之)

# 「冥福をお祈り申しあげます」

## 中村先生を偲ぶ

昭和二十七年、私は母校の  
匝磋高に転任した。その頃の  
中村先生は澁刺とした青年教  
員であった。

当時は、はっきりした事務  
局長の制度はなかったが、数  
も少なかった同窓生の要とし  
て、その役目を果たしていた。

いつも大らかで、人のこと  
は誉めこそすれ、くだすよう  
なことは全くなかった。

姓は中村名は鎮亥(ちんが  
い)と自ら称しておられたが、  
本当はシンカイと読むという  
ことは相当あとになって知っ  
た。生家の江波戸家は神葬祭  
であったので、私も一度奉仕  
させてもらった事がある。

第一回卒業生は、先生亡き  
あと、千葉市の竹下足藏先生  
のみとなった。竹下さんは生  
れは私の近くの春海である。  
三年ほど前、京葉地区同窓会  
でお会いして以来お目にかか  
る折がなく今日に至っている。  
第一回生と言え、最初に  
母校の教員になられた太田未

松先生、母校校長になられた  
中村先生と偉大な先輩が続い  
たが、お亡くなりになられ、  
寂しい限りである。手を合わ  
せ「冥福をお祈りするばかり  
である。

品村 晃祥(中14)

## 内田一正先生を

仰ぐ

さふさの編集会議に出て初  
めて内田先生のご逝去を知っ  
た。先生は東京物理学校を卒  
業し、若くして匝中の化学の  
教師になった。昭和十四年四  
月で私は中学三年生であった。  
当時の物理学校は誰でも入  
れるが、三年間で卒業できる  
人は数少ないと言われ、内田  
先生は三年で卒業したと言っ  
たので秀才だと称されていた。

昭和十三年には後に佐原高  
校長になられた芦野孝一先生  
が理科教員として赴任され、  
物理を担当された。私は五年  
生の化学を、物理の階段教室

の反対側の教室で教えられた  
余りに頭の良いせいにか、私  
などとてもついて行けなかつ  
た。そのかわり教室では良く  
いたずらをして嫌がられた。

教官室から先生が出てこら  
れる前に南側のカーテンを引  
いてうす暗くしておいたり、  
ドアを開けると上から頭の上  
に黒板ふきを落ちるようにし  
かけておいたり、いたずらの  
限りをつくして先生を困らせ  
た。

しかし先生は叱ることは一  
度もなかった。但し採点は厳  
しく、甲、乙、丙、丁、戊ま  
でつけられ、通信簿には丁と  
戊は赤字で書かれていた。  
何しろ平均点60点未満の者  
は、十人くらいは原級留置の  
落第となった。落第生は中央  
廊下に貼り出されて、もう一  
年同じ学年に通うことになっ  
た。それでも翌年一級下のク  
ラスで勉強する人も少なくな  
かった。中には成東中学に転  
校して行ったり、向こうから  
匝磋へくる人もいた。私のク  
ラスにも成東から二人入って  
きて一緒に卒業した。

内田先生の父親は有名な美  
術評論家で、新聞、雑誌でそ

の名を見た憶えがある。  
先生は人より大きなインチ  
の自転車で、汽車よりも速い  
と噂されていた。川越の実家  
まで土曜日帰宅され、月曜日  
に登校してこられる姿が焼き  
ついている。ユニークな先生  
でしたが、先生が亡くなられ

ホームページ  
バナー広告  
掲載者一覧

- ㈱ 荒井 荒井 淳一
- ㈱ 豊和グループ 久古 榮二
- フジミエレクトロ 伊藤 剛
- 古谷乳業 古谷 健一
- 三栄メンテナンス株式会社 吾妻 庵本店 石井 幸成
- 伊藤興業 伊藤 清
- 坂本総本店 多部田 惣八郎
- 柏熊不動産 柏熊 庄一

同窓会ホームページのバ  
ナー広告を募集しています。バ  
ナー広告は、会社名等をクリ  
ックすることにより、会社の  
ホームページに入ることが出  
来ます。同窓生への広告効果  
は絶大です。大いに活用して  
下さい。一口三万円です。事

もう匝中時代の恩師は一人も  
いなくなってしまう。私も  
八十六歳いよいよお暇する時  
期も迫ってきた。  
内田先生のご冥福を祈るこ  
と切なるものあり。

品村 晃祥(中14)

会員名簿について  
類似品にご注意!!

新しい会員名簿が来年の一  
月に発行される。現在住所等  
記載事項確認中で、会員各位  
のお手元に問い合わせが送ら  
れているはずですが、ご面倒な  
から、折り返しご返送くださ  
るようお願いいたします。

ところで、この時期本会と  
は無関係の組織による名簿発  
行の案内が届くかもしれませ  
ん。紛らわしいですが、案内  
書きの文面を注意深く読んで  
ください。

本会の会員名簿の編集・出  
版は㈱サラトが行い、返信  
用はがきの宛先は母校匝磋高  
校になっています。



# お悔やみ申し上げます

「遺族もしくは関係者から事務局にご連絡いただいた方です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。」  
(平成二十年三月三十一日受付分まで)

〔恩師逝く〕

中村 鎮亥先生

(中1/社会 校長)

平成20年1月11日逝去

匠瑳市八日市場イ二九二

昭和20年〜37年

昭和45年〜47年在職

内田 一正先生(理科)

平成19年9月22日逝去

川越市小ヶ谷四四

昭和14年〜24年在職

平成20年1月22日逝去

匠瑳市八日市場

八ノ五二二一

飯島 正平さん(中8)

平成19年5月逝去

銚子市松本町一五十八

越川 竹松さん(中8)

平成18年5月29日逝去

旭市新町一四三八

岡澤 政三さん(中8)

平成19年12月29日逝去

八千代市上高野

一一九一一〇二

伊東 茂富さん(中10)

平成19年12月24日逝去

文京区本駒込二一九一四

郡司 孝さん(中12)

平成19年9月24日逝去

多古町島二三五四

根本 公雄さん(中13)

平成16年10月22日逝去

中野区沼袋三二四二一八

熱田 榑房さん(中13)

平成19年12月2日逝去

若葉区千城台西

菊間 亘さん(中7)

平成20年1月11日逝去

佐倉市大崎台二七一九

鈴木 三郎さん(中14)

平成19年6月28日逝去

横芝光町台八六九一

渡辺 昇さん(中15)

平成19年11月27日逝去

目黒区平町

二二二一四一七〇三

高森 勇さん(中16)

平成19年10月15日逝去

大田区多摩川二二二四

関 忠さん(中17)

平成19年7月4日逝去

匠瑳市中台三六〇

山崎 勲さん(中17)

平成20年1月13日逝去

横芝光町台一六一四

官川 辰男さん(中17)

平成20年2月13日逝去

匠瑳市八日市場八五〇七

平野勝二郎さん(中17)

平成20年2月2日逝去

美浜区稲毛海岸

三三三二五一一〇四

椎名 岩松さん(中18)

平成19年11月6日逝去

銚子市新生町一五七一

林 義夫さん(中18)

平成19年10月2日逝去

札幌市北区麻生町六一十三

実川 栄次さん(中18)

平成19年11月18日逝去

横芝光町木戸一四六一

伊藤 嗣男さん(中21)

平成19年9月18日逝去

若葉区千城台西

一一四三三七

江波戸静夫さん(中21)

平成20年2月14日逝去

多古町多古二六九一

佐藤 光治さん(高2)

平成19年8月16日逝去

流山市江戸川台東

宮内 龍徳さん(定昼1)

平成19年9月13日逝去

松戸市三矢小台

宮沢 浩さん(高6)

平成19年12月1日逝去

銚子市東芝町三一四

間宮 新さん(高7)

平成19年8月3日逝去

南房総市和田町柴四九四

古西 孝雄さん(高9)

平成19年5月5日逝去

土浦市小松一一二二四

伊藤 喜六さん(高10)

平成19年10月19日逝去

四街道市千代田

中野 正昭さん(高15)

平成14年4月22日逝去

横浜市旭区笹野台

江波戸郁夫さん(高18)

平成18年6月17日逝去

八王子市散田町

四一五五一九





終身会費納入者

平成十九年九月二十八日から  
二十年三月二十八日受付まで

〔中十二回〕 (定夜八回)

岩瀬 利郎 遠藤喜代子

〔高二回〕 (高十五回)

野口 作治 金子てる子

〔高四回〕 (高二十七回)

熱田 重利 木下 幸一

〔高六回〕 (高二十八回)

石毛 勝義 向後 恵司

〔高七回〕 (高二十九回)

越川 清孝 秋庭 典子

〔定夜一回〕 (高十七回)

鈴木 隆 渡辺 信夫

〔高八回〕 (高十八回)

大海原清寿 石橋 巖

浪川 貢 田沼須美子

〔高九回〕 (高十九回)

小松 悦子 林 かおる

〔高九回〕 (高二十一回)

木内 勝利 佐々木万里子

〔定昼五回〕 (高十回)

菊間 浩亮 大木 君子

〔高十回〕 (高十一回)

小林 利枝 岩井 明宏

〔高十三回〕 (高三十三回)

布施 君美 渡辺 博光

〔高十四回〕 (高三十三回)

貝田 彬 根本ふみ子

小野 光子

〔高二十四回〕 (高三十五回)

網代 玲子 城之内清茂

布施 喜寛 (高三十七回)

〔高二十五回〕 岩澤ひろみ

大川 悦子 高橋 良一

戸村 和男 長嶋 康夫

〔高二十六回〕 (高三十八回)

江波戸智恵子 高橋 義直

〔高二十七回〕 (高三十九回)

本間 律子 遠藤 彰久

〔高二十八回〕 (高四十二回)

石井 正之 鈴木みのり

〔高二十九回〕 (高四十五回)

梶 百合子 伊橋 淳也

〔高二十九回〕 (高四十六回)

田辺 良子 山崎 隆行

〔高三十一回〕 (高四十六回)

川口 操 越川裕美子

〔高三十二回〕 (高五十三回)

宮崎 良喜 渡邊 敏樹

〔高三十三回〕 (高五十四回)

伊藤 修 大木 陽子

〔定夜二十六回〕 (高五十四回)

斎藤 恵子 林 裕幸

〔高三十三回〕 (高五十四回)

篠崎 久美 鈴木 直幹

〔高三十三回〕 (高五十四回)

鈴木 春雄 吉田 茜

年会費納入者

平成十九年九月二十八日から  
二十年三月二十八日受付まで  
名前の下の数字は納入してい  
ただいた年数を示します。

〔高二十一回〕 高野 英之10

小林 典子10 (高三十五回)

山本 繁5 桜井 隆宏5

勝股 良子5 高橋 克巳1

〔高二十二回〕 (高三十六回)

松田 範子10 遠藤 栄子5

熱田 典子10 林 曉彦1

〔高二十四回〕 (高三十七回)

豊田 裕10 竹山 幸代5

〔高二十六回〕 (高三十八回)

熱田 隆5 大川信一郎1

塚越 満里10 柴田 純子10

山木 秀子10 中村喜美子5

〔高二十七回〕 (高四十一回)

三谷 礼子10 足立美佐江5

飯島 祥邑10 宮本 明10

〔高二十八回〕 (高四十二回)

寺本 淳身20 崎山 博之1

並木 良雄2 及川 博1

〔高二十九回〕 (高四十三回)

森 幸男5 石毛 洋子5

〔高三十回〕 (高四十四回)

石橋 幸一10 遠藤 正和1

鈴木 順子5 木原智恵子3

〔高三十一回〕 (高四十五回)

実川 好敏10 岩崎 傳一10

〔高三十二回〕 (高四十六回)

林 一雄10 常世田修一5

〔高三十三回〕 (高四十七回)

伊地知正一10 来栖 聖一5

〔高三十四回〕 (高四十八回)

伊藤 武雄10 高橋 孝二1

〔高三十五回〕 (高四十九回)

宇井 照子1 伊藤 圭子5

〔高三十六回〕 (高三十三回)

石毛 啓5

佐藤 佳子5

〔高四十五回〕

高野 英之10

〔高四十六回〕

井上満佐美10

〔高四十七回〕

石橋 祥光3

〔高四十八回〕

香川 穰治1

〔高四十九回〕

寺本 将10

〔高五十回〕

中西 大典5

〔高五十一回〕

石毛 真志10

〔高五十二回〕

伊藤奈穂美10

〔高五十三回〕

香川 梨沙1

〔高五十四回〕

小沼 高5

〔高五十五回〕

香川 陽平1

〔高五十六回〕

小沼 高5

〔高五十七回〕

清水よしの5

〔高五十八回〕

前橋 裕介5

〔高五十九回〕

石毛 康文10

〔高六十回〕

秋葉 美果5

〔高六十一回〕

菅谷 智久10

〔高六十二回〕

古谷 健一 (会長/高15)

第37号編集委員

- 馬淵 英夫 (高10)
- 品村 晃祥 (中14)
- 平山 武彦 (高7)
- 綿貫ひろ子 (高8)
- 米本 雅男 (高10)
- 富澤 汎子 (高11)
- 川口 克己 (高15)
- 岩瀬 道治 (高24)

編集後記

生前、中村鎮亥先生に長生きの秘訣を尋ねたことがあった。

「家に閉じこもっていないで、人前に積極的に出て行くことだよ。それも多勢の人の前にな。」

こんな答えが返ってきた。自分の父親が家にこもっていて、あまり外へ出ることもなく、70台半ばで終えたことを考え、なるほどと思った。

卒業式や入学式、同窓会総会などでの先生の元気な姿が目に見えが。

あの世でも新聞折込のウラに七絶や五絶などの漢詩を書いておられるだろうか。ご冥福をお祈りします。

